

ヨウ素利用研究会設立趣意書

平成 10 年 6 月 1 日

ヨウ素は、人類のみならず動植物の生存に必須の元素であり、古くから医薬用に利用されています。例えばヨウ素元素が本来保有する抗微生物作用による殺菌消毒剤や優れた X 線吸収能を利用する造影剤は、現在でも医療分野で活用されています。その他にも写真感光剤、飼料、除草剤、工業用触媒、樹脂安定剤、偏光膜等の広い産業分野で着実に需要を伸ばし、世界の需要は 1 万 8 千トンを超えています。

世界のヨウ素の生産は、現在日本とチリが二大生産国であり、資源に乏しい日本が世界の 40%を生産している世界に誇れる産品で有ります。日本での生産は、主として千葉県及び新潟県の国産天然ガス付随かん水から生産されています。

しかしながら、ヨウ素の利用研究は世界的に見て活発とはいえず、さらに日本においてその生産量の 85%がヨウ素単体のまま輸出され、欧米から高価な医薬品として輸入するという構図で、日本のヨウ素利用研究の根本的な改善が望まれるところであります。

近年、21 世紀の人類の課題とも言える“環境・エネルギー・生命”のテーマに添うようなヨウ素を利用した研究成果が散見されます。例えば、新しい生理活性物質、特殊反応試割による新たな化合物合成、化学レーザー、電池材料等の研究が緒に就き、将来の成果が期待されます。これらの研究は体系的な取り組みという訳ではありませんが、ヨウ素の潜在力を示したものと思われま

す。世界の主要生産国であり高度な産業基盤と専門技術を蓄えた日本が、ヨウ素を利用する基礎・応用研究を推進しその成果による産業を発展させ、ひいては将来の課題の解決に貢献するためには、古くから知られるヨウ素の基礎的な性質を現代の科学的観点から見直しを行い、ヨウ素化学から関連する科学およびその応用に従事する学界・官界・産業界の協力による成果が望まれます。

この度、上記の趣旨を実現するため、ヨウ素生産の中心である千葉県の学界(大学)とヨウ素産業界(企業)の有志による発意と、官界(千葉県等)の賛同により「ヨウ素利用研究会」の設立をするものであります。

ヨウ素利用研究会 設立発起人；

横山 正孝 (千葉大学理学部教授)
山口 達明 (千葉工業大学工学部教授)
村上 泰興 (東邦大学薬学部教授)
江崎 正直 (関東天然瓦斯開発(株)社長)